

「ユビキタス・フィールド岡山」の実現に向けて

岡山県における情報化の推進

今やインターネットは、私たちの生活や社会経済活動に欠かせない情報通信手段の一つとなっています。本県では、インターネットを中心とするこのような高度情報化社会の到来に備えて、平成8年に「岡山県高度情報化基本計画」を策定し、「岡山情報ハイウェイ構想」を推進するなど、先進的な地域情報化施策を積極的かつ総合的に展開しています。

岡山情報ハイウェイは、県内全域を8の字に結ぶ自設・自営の高速大容量光ファイバ網（総延長約450km）です。平成13年度に基幹回線が完成し、平成16年3月には、さらなる高速化を実現するとともに、次世代ネットワーク技術である「IPv6化」を図るなど、着実な進化を遂げています。

岡山情報ハイウェイの特徴は、県内全域にわたる高速ネットワーク環境を構築するため、最先端の基幹回線網を、市町村をはじめ民間通信事業者、大学等の教育・研究機関、病院などに広く無料開放していることです。

平成15年には、県内全市町村（当時78）との光ファイバ接続が完了し、これに合せて、各市町村でネットワーク整備を推進した結果、地域公共ネ

ットワークの整備率が100%となり、現在では、2,000を超える学校、公民館、病院などの公共施設がつながる、全国に例を見ない公共ネットワーク網が形成されています。

また、岡山情報ハイウェイには、ISP（インターネット・サービス・プロバイダ）やケーブルテレビなどの民間通信事業者などが接続し、民間地域IP網との相互接続により、県民の方々のインターネット基盤として大きな役割を果たしています。

このようなIT環境を生かし、県では、電子自治体の推進をはじめ、公共工事の電子入札や医療、教育、産業振興等の分野で、ネットワークの積極的な活用を推進しています。

電子入札と入札情報サービス

公共工事における入札制度の透明性の確保、入札参加者の利便性の向上及び入札事務の合理化を図ることを目的として、平成14年4月に電子入札を導入し、現在では、すべての工事請負及び設計等の業務委託の入札において電子入札を実施しています。

また、平成18年12月からは、発注見通し、入札予定、入札結果及び契約結果をインターネットで

岡山県知事 いし い まさ ひろ
石井 正 弘



公開する「岡山県入札情報サービス」を行っています。

引き続き、入札関係事務の完全電子化に向けて、設計図書等がダウンロードできるシステム等の整備などに取り組んでいきたいと考えています。

これからのIT戦略

平成19年1月には、本県の高度情報化の次のステップとして、平成19年度から21年度を計画期間とするIT推進計画「新おかやまIT戦略プログラム～おかやまITイニシアティブ～」を策定しました。

本プログラムは、県土全体に豊かな人材とネットワーク環境に支えられた魅力的な市場としてのITフィールドを構築し、このフィールド上でITを活用した経済活動や社会生活が活発に展開され、地域的な広がりをもって本県が力強く発展、飛躍する社会を実現することを目指しています。具体的には、岡山情報ハイウェイをはじめとする情報基盤に加え、無線などの技術を最大限に活用し、都市部と山間部など地域間における情報格差の解消を図ることを目的とした「岡山情報ハイウェイ・セカンドステージ構想」と、コミュニティの中でITを活用したまちづくりを進める「コミュニティ

IT・タウン構想」を柱として掲げています。加えて、誰もが安心して暮らすことができる地域社会やスリムで効率的な行政運営などを目指して、各種重点化施策を進めることとしています。

その中でも、公共工事のIT化につきましては、本プログラム及び平成17年3月に策定している「岡山県公共工事等IT戦略基本計画 CALS/ECアクションプログラム」に基づき、着実に推進してまいります。公共工事に関する各種情報を電子化することで、公共施設の維持管理に活用したり、インターネット等による情報公開を推進するとともに、受発注者等の関係者間で情報交換を迅速に行うなど、透明性の高い公共工事の推進に努めてまいります。

誰もが、いつでも、どこでも、ネットワークを自由に活用し、生活のさまざまな面でITの恩恵を実感できる便利で活力のある「ユビキタス・フィールド岡山」の実現に向け、県民力を結集し、「おかやまITイニシアティブ」という名にふさわしく、県民力を結集して、今後の地方における情報化のモデルを岡山から全国に発信していきたいと考えています。